

砂防

ふくしま

第29号

福島県砂防協会機関誌

平成28年度福島県優良建設工事（砂防関係工事）



①(砂防部門)



②(砂防部門)



③(環境緑化部門)

- ①砂防（交付）工事（堰堤工）
八木沢沢（南会津郡只見町大字蒲生地内）
美馬建設株式会社
- ②砂防（交付）工事（雪崩）
間方地区（大沼郡三島町大字間方地内）
佐久間建設工業株式会社
- ③砂防（交付（再復））工事（法面）
岩下地区（白河市表郷八幡地内）
株式会社グリーンサービス福島

CONTENTS

福島県砂防協会会長あいさつ 2

各種会議について 2

2017日台砂防共同研究会について 4

平成29年度砂防関係事業 5

平成29年度「土砂災害防止に関する絵画・作文」の募集 6

平成28年度「土砂災害防止に関する絵画・作文」結果について 6



Future
From
Fukushima.

ふくしまから
はじめよう。

福島県砂防協会会長あいさつ



福島県砂防協会会長
南会津町長 大宅 宗吉

福島県砂防協会会長の大宅宗吉です。

会員の皆様には、日頃から本協会の運営にあたり、御理解と御協力をいただき深く感謝申し上げます。

また、今年7月に発生しました九州北部豪雨により、お亡くなりになられた方々に、心よりお悔やみ申し上げますとともに、被災された方々にお見舞い申し上げ、一日も早い復興をお祈り申し上げます。

さて、8月1日に開催されました平成29年度福島県砂防協会役員会、通常総会において、任期満了に伴う、役員改選が行われましたが、役員の皆様の御推薦により、引続き会長に就任となりました。

今後とも、本協会の発展と本県の砂防事業推進のため、会員の皆様と力を合わせて取り組んで参ります。

昨年は全国で1,492件の土砂災害が発生しましたが、8月の台風第10号では、岩手県岩泉町において、洪水により広範囲で浸水が発生し、高齢者福祉施設で9名の方が亡くなりました。このことにより、水防法と併せて土砂災害防止法が改正される契機となり、要配慮者利用施設の管理者等は、避難確保計画の作成や避難訓練の実施が義務付けられました。

近年の降雨の傾向が局所的、短時間に集中する傾向へと変化しており、九州北部豪雨でも「線状降水帯」が話題になりました。豪雨に伴う大規模土砂災害は、日本全国、どこで発生してもおかしくない状況であり、砂防事業の重要性について再認識しております。

本協会としましては、ハード・ソフトが一体となった総合的な土砂災害対策の推進のため、今後とも積極的な支援、協力に努めて参りたいと考えておりますので、会員の皆様におかれましては、引続き御理解と御協力をいただきますよう、よろしく申し上げます。

平成29年度第81回通常総会について

平成29年5月25日に、砂防会館（東京都千代田区）において、「第81回通常総会」が開催されました。

当支部から14名が出席し、平成28年度事業報告、収支決算、平成29年度事業計画報告、収支予算報告などが行われ、満場一致で承認されました。任期満了に伴う役員改選も行われ、新役員が選任されました。



会場の様子



壇上の様子

平成29年度全国治水砂防協会東北地区協議会通常総会の開催

平成29年7月20～21日、岩手県一関市「かんぼの宿一関」において、全国治水砂防協会東北地区協議会第66回通常総会及び研修会が開催され、東北各県の砂防協会会長らにより、東北地区における砂防事業の発展や会員相互の連携強化を図るための事業について、意見が交わされました。

併せて、東北地区における砂防功労者表彰も行われ、本県からは、協会副会長として長きにわたり本協会に御尽力されている添田勝幸天栄村長が受賞されました。



視察状況（北上川学習交流館）

平成29年度福島県砂防協会役員会・通常総会の開催について

平成29年8月1日、福島市（杉妻会館）において、福島県砂防協会役員会・通常総会が開催され、平成28年度事業報告・収支決算、平成29年度事業計画案・収支予算案、理事・幹事の選出の議案が審議され、全会一致で承認を得ました。

平成29年度東北地区協議会砂防功労者として、添田勝幸天栄村長が受賞されましたので、総会の中で表彰伝達式を行いました。総会後は、「国土交通省水管理・国土保全局砂防計画課城ヶ崎正人地震・火山砂防室長」、「一般社団法人全国治水砂防協会渡正昭理事」より講話を賜りました。



新役員（平成29年8月現在）

会 長（1名）：南会津町長

副会長（7名）：福島市長、天栄村長、猪苗代町長、川内村長、いわき市長、
県土木部長、佐藤憲保県会議員

理 事（13名）：二本松市長、川俣町長、古殿町長、小野町長、白河市長、西郷村長、
会津若松市長、柳津町長、喜多方市長、西会津町長、下郷町長、
只見町長、相馬市長

監 事（2名）：棚倉町長、三島町長



表彰伝達の様子
添田勝幸天栄村長
（写真左側）

平成28年度「全国治水砂防促進大会」及び「福島県砂防協会要望活動」について

平成28年11月15日に、砂防会館別館（東京都千代田区）において、「全国治水砂防促進大会」が開催されました。

当支部から21名が出席し、砂防関係事業の促進について全国治水砂防協会副会長（宮城県蔵王町長）より提言の読み上げがなされ、満場一致で採択されました。

意見発表としては、熊本県阿蘇市長より、熊本地震への対応状況の説明や、和歌山県那智勝浦町長より、土砂災害の犠牲者をゼロにする取組内容について説明がありました。

なお、閉会後は福島県選出の国会議員への要望活動を実施しました。写真は、本人が在室されていた金子議員と玄葉議員に対する要望活動状況です。

今年度は11月28日に実施されます。



促進大会会場の様子

福島県砂防協会要望活動



金子議員



玄葉議員

2017日台砂防共同研究会について

平成29年7月23日から29日にかけて、台湾の中華水土保持學會並びに中華防災學會から合わせて14名が来日し、東京でのシンポジウムの後、本県を訪問されました。福島県内の砂防施設をはじめとした東日本大震災からの復旧・復興の状況を視察し、土砂災害防止に関する砂防技術の向上を図るための情報共有や意見交換を行いました。

現地視察箇所

- ・津波災害復旧事業【岩間地区海岸（いわき市）】
- ・地すべり対策事業【高清水地区（福島市）】
- ・直轄砂防事業【荒川上流地蔵原堰堤（福島市）】
- ・磐梯山噴火記念館（北塩原村）
- ・農業用ダム災害復旧事業【藤沼ダム（須賀川市）】
- ・地すべり対策事業【葉ノ木平地区（白河市）】

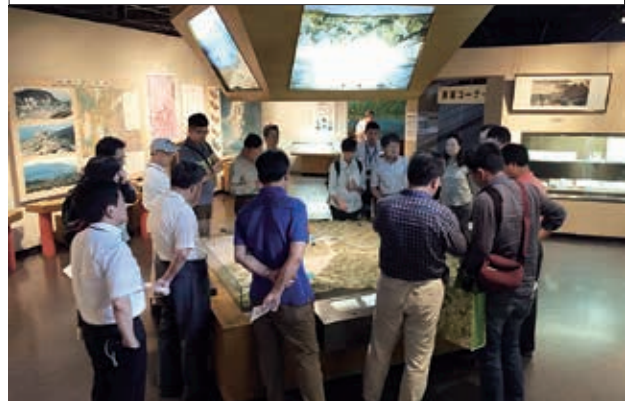
津波災害復旧事業 岩間地区海岸（いわき市）
視察状況



地すべり対策事業 高清水地区（福島市）視察状況



磐梯山噴火記念館（北塩原村）視察状況



農業用ダム災害復旧事業
藤沼ダム（須賀川市）視察状況



集合写真（地すべり対策事業 葉ノ木平地区 白河市）
歓迎に訪れた道路工事の現場作業員の方たちと一緒に集合写真



直轄砂防事業 荒川上流地蔵原堰堤
（福島市）視察状況



平成29年度砂防関係事業

概要

平成29年度は砂防関係予算に総額38億2,551万円（前年度比12%減）を計上しています。
平成28年度補正分を含めると約45億円を確保しており、被災箇所への再度災害防止や要配慮者利用施設等を保全する施設整備を進めるほか、土砂災害警戒区域等の指定に必要な基礎調査を実施します。

整備率

県内の土砂災害危険箇所8,689箇所のうち、県が施設整備を予定している3,009箇所に対する整備率は27.5%（平成28年度末現在）となっています。

土砂災害発生箇所や要配慮者利用施設が保全対象の箇所、土砂災害特別警戒区域内に防災拠点（役場、警察、消防）や人家を多数抱える箇所で重点的、効率的に整備を進め、危険箇所の解消を図っています。

交付金事業

平成29年度当初予算における砂防関係予算の内訳

- ①交付金事業（砂防） 7億5,380万円
 - ②交付金事業（砂防）（再生・復興） 14億2,212万円
 - ③緊急砂防等災害関連 1,300万円
 - ④砂防施設 8億8,400万円
 - ⑤砂防調査 271万2,000円
 - ⑥砂防施設維持管理 2億1,188万6,000円
 - ⑦砂防事業負担金 5億3,799万2,000円。
- ※交付金事業の施工予定箇所は〈別表〉の通り。

基礎調査

基礎調査の実施対象となる土砂災害危険箇所7,867箇所について、31年度までの調査完了を目指して重点実施しております。

平成28年度末までに5,334箇所の調査結果を公表し、3,175箇所の区域指定を完了しております。

平成29年度は当初予算で4億400万円を確保し、調査の促進を図ります。

県単独事業

県単独事業では、補助対象以外の近年被災した箇所、災害時要配慮者利用施設等がある箇所の対策工を実施します。砂防施設（3億5,400万円）は平内沢ほか19箇所、地すべり対策施設（2,000万円）は村杉1箇所、急傾斜地崩壊防止施設（5億1,000万円）は百目木ほか15箇所を実施します。

維持管理は砂防堰堤、溪流保全工など老朽施設の補修、砂防指定地内の施設点検に1億2,438万6,000円、集水ボーリング洗浄や水路工補修などに3,040万円、法枠工など補修と施設点検に5,710万円を充てます。

平成29年度施工箇所一覧（交付金）

H29現年予算				
事業区分	地区	溪流名	場所	工種
交付金事業	県中	大石沢	平田村上蓬田	堰堤工
	県南	仲折戸沢	棚倉町漆草	堰堤工
	若松	慶山沢	会津若松市慶山二丁目	堰堤工
	若松	坊が沢	会津坂下町気多宮	堰堤工
	若松	院内沢	会津若松市東山町	堰堤工
	若松	川向	昭和村松山	擁壁工
	喜多方	熱塩沢	喜多方市熱塩加納町	堰堤工
	喜多方	小田川	西会津町奥川	堰堤工
	喜多方	山崎	喜多方市慶徳町	擁壁工
	喜多方	蓬萊	喜多方市山都町	集水ボーリング工
	南会津	宮ノ沢	南会津町丹藤	堰堤工
	南会津	叶津川	只見町叶津	堰堤工
	南会津	上湯野上沢	下郷町湯野上	堰堤工
交付金事業（再生・復興）	相双	表	南相馬市小高区	法枠工
	いわき	北町	いわき市江名	法枠工
	県北	七曲の沢	川俣町七曲	堰堤工
	県北	東八川	福島市松川町	堰堤工
	県北	藤入川	福島市松川町	堰堤工
	県北	羽根山	福島市大笹生	擁壁工
	県北	松木下	二本松市木幡	法枠工
	県中	石田沢	田村市船引町	堰堤工
	県中	熱海五丁目沢	郡山市熱海町	堰堤工
	県中	日向	須賀川志茂	張co工
	県南	大高内沢	白河市大信	堰堤工
	県南	岩下	白河市表郷八幡	法枠工
	県南	平鉢2号	矢吹町平鉢	法枠工
	喜多方	中ノ沢川	猪苗代町川上	堰堤工
	相双	前田沢	飯館村飯樋	堰堤工
	相双	西玉野沢	相馬市玉野	堰堤工
	相双	毛戸	川内村下川内	法枠工
いわき	柳間沢	いわき市内郷白水町	堰堤工	
いわき	下平沢	いわき市渡辺町	堰堤工	
いわき	貝屋	いわき市田人町石住	法枠工	
いわき	山ノ根2号	いわき市常盤岩ヶ岡町	法枠工	
いわき	搦町	いわき市小名浜住吉	法枠工	
いわき	東作1号	いわき市常盤下船尾町	法枠工	
いわき	寺前	いわき市仁井田町	擁壁工	
いわき	林崎2号	いわき市山田町	擁壁工	

H28補正				
事業区分	地区	溪流名	場所	工種
交付金事業	県北	後沢川	二本松市西新殿	溪流保全工
	県北	大作沢	川俣町大作	堰堤工
	若松	西田面沢	会津若松市湊町	堰堤工
	若松	木置沢	昭和村小野川	堰堤工
	若松	御伊勢ノ宮沢	昭和村小野川	溪流保全工
	喜多方	湯上沢	喜多方市熱塩加納町	堰堤工
	喜多方	阿賀野川圏域（小屋沢外）	喜多方市山都町外	緊急改築
南会津	二軒在家沢	只見町二軒在家	堰堤工	

H28発生災害（緊急砂防等災害関連費）				
事業区分	地区	溪流名	場所	工種
			H28実施無し（緊急砂防等災害関連費）	

平成29年度「土砂災害防止に関する絵画・作文」の募集

土石流、地滑り、がけ崩れ等の土砂災害から人命、財産を守るため、毎年6月を「土砂災害防止月間」と定め、土砂災害防止に関する国民の理解と関心を深めるための取組を行っています。

この絵画・作文の募集は、土砂災害防止月間の行事の一環として、未来を担う小中学生に、土砂災害及びその防止についての理解と関心を深めてもらうために、実施しています。

全国の応募者数は年々増加しており、毎年発生する土砂災害に対して、関心が高まっていることが、理由として考えられます。



平成28年度最優秀賞作品
(国土交通大臣賞)

「ひなん経路の確認をしよう」
愛媛県大洲市立粟津小学校6年
小泉 夏帆さん

募集対象：絵画、作文の部ともに全国小・中学校生徒

募集期間：平成29年6月1日～平成29年9月15日

送り先：福島県砂防課内「土砂災害防止に関する絵画・作文」担当あて
※各小・中学校で作品をとりまとめて送付

審査：地方審査（福島県）を経て、中央審査（国土交通省）が行われ、入賞作品が選定されます。

その他：応募作品については、原則として返還しません。
応募作品は、未発表オリジナルのものに限ります。

平成28年度「土砂災害防止に関する絵画・作文」結果について

平成28年度も土砂災害防止月間行事のひとつとして、未来を担う小・中学生を対象に、土砂災害防止に関する絵画・作文の募集を行いました。

本県では、150点の応募作品の中から、地方審査の結果、15作品が福島県砂防協会会長賞に選ばれ、そのうち7作品を国が行う中央審査会に推薦しました。

中央審査会における審査の結果、本県より2名が入賞されましたので、ここに入賞された方々の作品を紹介します。

なお、平成29年度受賞作品の本誌への掲載・発表は、平成30年度に予定しています。

優秀賞（国土交通事務次官賞）

○絵画（小学生）の部

平田村立蓬田小学校 太田 美羽さん

○絵画（中学生）の部

石川町立石川中学校 添田 心愛さん

【作品応募及び受賞状況】

区分	福島県応募作品数			全国応募作品数					
		協会会長賞※1	中央推薦	最優秀賞※2	優秀賞※3		福島県		
					福島県	福島県			
絵画	小学生	69	6	3	1,389	1	0	15	1
	中学生	72	7	3	1,599	1	0	15	1
作文	小学生	0	0	0	430	1	0	15	0
	中学生	9	2	1	999	1	0	15	0
小計	小学生	69	6	3	1,819	2	0	30	1
	中学生	81	9	4	2,598	2	0	30	1
合計		150	15	7	4,417	4	0	60	2

※1 協会会長賞＝福島県砂防協会会長賞
 ※2 最優秀賞＝国土交通大臣賞
 ※3 優秀賞＝国土交通事務次官賞

絵画（小学生）の部



優秀賞（国土交通事務次官賞）
「大好きな村がなくなっちゃう…」
平田村立蓬田小学校3年
太田 美羽さん

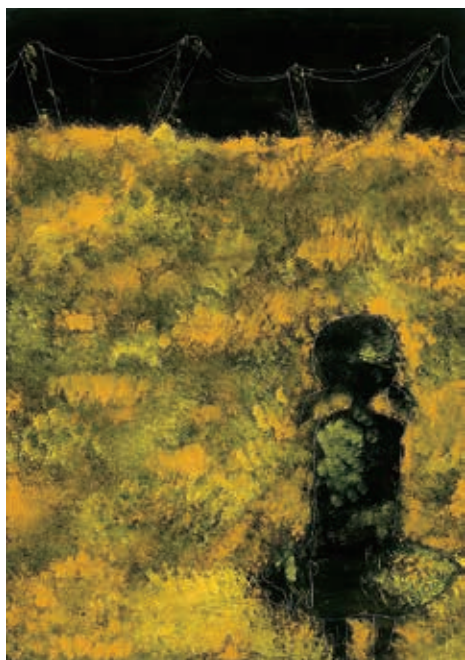


福島県砂防協会会長賞
「はやくにげよう」
会津坂下町立坂下東小学校2年
安齋 凜さん



福島県砂防協会会長賞
「はやくにげて」
会津坂下町立坂下東小学校2年
二瓶 未帆さん

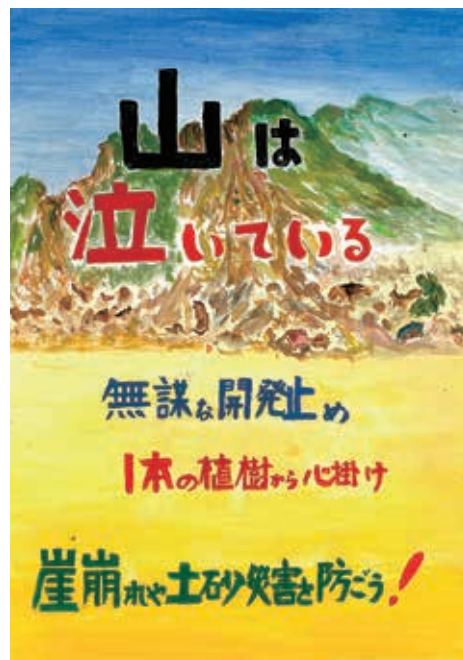
絵画（中学生）の部



優秀賞（国土交通事務次官賞）
「たたずむ少女」
石川町立石川中学校3年
添田 心愛さん



福島県砂防協会会長賞
「あなたは守れますか？」
石川町立石川中学校2年
永沼 紗矢香さん



福島県砂防協会会長賞
「山は泣いている」
二本松市立安達中学校3年
海老原 龍さん

福島県砂防協会長賞 「土砂災害の危険性について」

須賀川市立第二中学校3年 寺山 凌雅さん

最近、台風が上陸し、ニュースになっている中、絶対忘れていけないことがあります。それは、土砂災害です。傾斜が急な山が多い日本は、台風や大雨、地震などが引き金となり、崖崩れや土石流、地すべりなどの土砂災害が発生しやすい国土環境にあります。そのことを証明するように、なんと日本全国で土砂災害が発生するおそれのある危険箇所は、約五十三万箇所もあります。もしかしたら、私たちの身近な場所で土砂災害が発生したり、自分が巻き込まれる可能性があるのです。土砂災害が起きる前に気付くことができないのか、どうしたら自分の身を守ることができるのかと思う人もいるでしょう。そのためには、私たち一人ひとりが土砂災害に対して、日頃から備えておくことが大切です。そして、土砂災害から身を守るために、知っておきたい三つのポイントがあります。

一つ目は、住んでいる場所が「土砂災害危険箇所」かどうかを確認することです。土砂災害が発生するおそれのある地区は「土砂災害危険箇所」とされています。普段から自分の家が土砂災害危険箇所にあるかどうか、国土交通省砂防部のホームページなどで確認するとよいでしょう。ただし、土砂災害危険箇所でなくても、付近に「がけ地」や「小さな沢」などがあれば注意しましょう。

二つ目は、雨が降り出したら土砂災害警戒情報に注意することです。「土砂災害警戒情報」は、大雨による土砂災害発生危険度が高まったときに、市町村長が避難勧告などを発令する際の判断や住民の自主避難の参考となるよう、都道府県と気象庁が共同で発表する防災情報です。気象庁ホームページで確認できるほか、テレビやラジオの気象情報でも発表されるので、常日頃から注意をしておくといよいでしょう。

三つ目は、土砂災害警戒情報が発表されたら早めに避難することです。住んでいる地域に土砂災害警報が発表されたら、早めに近くの避難場所など、安全な場所に避難しましょう。また、強い風や長雨の時などは市町村の防災行政無線や広報車による呼びかけにも注意が必要です。そして、お年寄りや障害のある人など避難に時間がかかる人は、移動時間を考えて早めに避難することが大切です。この三つのポイントを知っておけば、土砂災害から身を守れますが、土砂災害の種類や特徴も知っておくと、より早く対策ができます。

土砂災害には、「がけ崩れ」「地すべり」「土石流」の3つの種類があります。まず最初に、「がけ崩れ」の特徴を説明します。がけ崩れは、斜面の地表に近い部分が、雨水の浸透や地震等でゆるみ、突然、崩れ落ちる現象です。がけ崩れの恐ろしいところは、崩れ落ちるまでの時間が短いため、人家の近くでは逃げ遅れも発生し、人命を奪うことが多いということです。次に、「地すべり」についてです。地すべりは、斜面の一部あるいは、全部が地下水の影響と重力によって、ゆっくりと斜面下方に移動する現象です。土塊の移動量が多いため、甚大な被害が発生します。最後に、「土石流」についてです。土石流は、山腹や川底の石、土砂が長雨や集中豪雨などによって、一気に下流へと押し流される現象です。土石流は、がけ崩れと同じくらいか、またはそれよりもっと上くらいに危険です。なぜなら、時速二十～四十キロメートルという速度で、一瞬のうちに人家や畑などを壊滅させてしまいます。逃げ遅れるととても危険です。そしてこの三つの種類には、前兆現象があります。例えばがけ崩れだと、がけにひび割れができる、小石がパラパラと落ちてくる、がけから水が湧き出る、湧き水が止まる・濁る、地鳴りがするなどです。もしも、前兆現象に気づいたら、周囲の人にも知らせ、いち早く安全な場所に避難することが大事です。

僕は、この作文を書くことで、土砂災害の恐ろしさ、危険性をあらためて実感することになりました。そして、土砂災害から身を守るための対策や避難のしかた、情報の収集のしかたを学ぶことができました。土砂災害の恐ろしさ、危険性をあらためて知ること、いろいろなことを学んだので、この事を活かして、今後自分の命を守るためにしっかりとした対策をとりたいです。あと、家族や友人などにも教えることで、多くの人が安全に対応できるので、少しずつ広めていきたいと思いました。

編集後記

「砂防ふくしま（第29号）」をお届けします。

これからも充実した「砂防ふくしま」の発行に努めて参りますので、皆様のご意見ご要望をお寄せ下さい。

